

## 第1回支援員研修会 報告

日時 令和6年9月16日（月）10：00～12：00  
 場所 山口県セミナーパーク（午後の活動は熱中症警戒アラート発表のため中止）

### — 樺野川河口域干潟における里海再生活動 —

講師 山口県自然保護課 柿園博美氏・山口県環境保健センター 元永直耕氏

樺野川河口域の干潟・山口湾は、環境変化による干潟や生物数の減少が進み、このままでは、干潟生物や鳥類などの生息環境の維持が困難と考えられたことから、平成16年に設立された「樺野川河口域・干潟自然再生協議会」（以下「協議会」という。）において、産学官民が連携・協働した、里海再生活動が展開されています。

研修会では、まず、協議会事務局を務める柿園講師から、同所は過去の干拓・埋立等やカキの著しい増加によるカキ殻堆積、泥質化、干潟の硬質化の進行により、環境悪化の負のスパイラルとなっていたことや、協議会において、「生物多様性の確保」「多様な主体の参画と産学官民の協働・連携」「科学的知見に基づく順応的取組」を視点とした里海再生に取り組み、その成果として、アサリを収穫するに至るとともに、ボランティア活動を通じた多様な主体の連携が促進されたことなどが紹介されました。



<村誌等の資料より引用>

次に、環境保健センター元永講師から、科学的な観点による、アサリの生態やその生息環境と干潟再生活動におけるモニタリング調査やその評価などについて説明がありました。

アサリは干潟における生物多様性の確保やその指標としての役割があり、その保護と育成は、生態系と人と自然をつなぐ鍵種となっており、多様な価値を創出する。このため、アサリの生残率や個体数の増加に必須となる被覆網の設置や、稚貝の成長に有効な手法の試行錯誤や検討を重ねて、現在は網袋（玉ねぎネット）を用いた方法により、効果が確認できていることなどが紹介されました。



なお、こうした活動には、多くの担い手や資金の確保が必要であり、協議会では、「ふしの干潟ファンクラブ」によるボランティアの確保や「干潟いきもの募金」、「寄附付き商品販売」による資金確保、企業との連携づくりなどに取り組み、多様な主体との連携による「持続可能な里海再生」を目指しています。

支援員の皆様も、是非、里海再生活動に参加してください！



過去のイベントでの集合写真 <元永講師の資料より引用>

「30 by 30 目標」の達成に向けて、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定する制度の登録促進に向けた県の取組について紹介されました。



現在、「自然共生サイト」が未登録の都道府県は、山口県を含め数県しかないとのことであり、県では、令和6年3月に「やまぐち生物多様性センター」を自然保護課内に設置するとともに、セミナーの開催や、生物多様性保全活動への取組を拡大するための新たな制度の創設を検討するなど、県全体での生物多様性に係る理解促進をはかることで登録促進につながるよう積極的に取り組まれています。

支援員の皆様もこうした活動への御協力をお願いします。

#### アンケートより

- ・アサリの生態がよくわかった。
- ・現地研修を楽しみにしていたが大変残念だった。
- ・自然と人間の共存するうえでの課題や活動がわかった。
- ・今日の講義で「ふしの干潟ファンクラブ」の活動の目的等を詳しく理解できた。
- これから干潟再生プロジェクトに参加したいと思う。

#### 自然保護課からのお知らせ

## 森の妖精ヤマネが発見されました！！

正式名称は「ニホンヤマネ」と言います。ネズミとは全く別の種類で一属一種の日本固有種で、国指定の天然記念物（※捕獲等禁止されています。）です。今回、山口市阿東地福下にある山口市立さくら小学校で確認・写真撮影されたものです。撮影者によると、プランターに入って出られなくなっていた所を発見したとのこと。その後優しい発見者の方の補助により無事森に帰れたようなので一安心ですね。みなさんも運が良ければ会えるかもしれないので、探してみてください！！



#### ●形態・生態

頭胴長60～80mm、尾長50～60mm。外観はネズミに似るが房状の尾を持つ。体重は季節変動が著しく、春から秋にかけて20g前後だが冬眠前には30gを超える個体もある。体色は黄褐色で背面に正中線に沿って黒褐色の線が1本あり、目の周りも黒褐色である。夜行性で、おもに樹上で活動する。盲腸を持たず、果実、種子、昆虫など繊維質が少ないものを主食とする。繁殖期は地域差が大きく、暖温帯では晩秋以降の繁殖の報告もある。繁殖時には樹洞内や木の枝の間に樹皮やコケで球形の巣を作る。1腹産仔数は平均で4頭弱。晩秋から早春まで冬眠する。

#### ●生息・生育状況

水平分布は本州・四国・九州・隠岐で、北は青森県から南は鹿児島県に及ぶ。垂直分布は隠岐島後（おきどうご）の標高約20mから八ヶ岳連峰の2640mと広範囲であるが、山口県では山口市以東の標高の高い地域に限られるようである。山地から亜高山帯の成熟した森林に生息し、低標高かつ平坦な地域は生息には適さない。

#### ●減少等の要因

巣材にはスギ・ヒノキの樹皮を用いるが、採餌の面からは豊かな植生を有する自然林が重要であり、過去におけるバランスを欠いた人工林の拡大が本種の減少を招いたのではないかと考えられる。